

toVO トウモロコシ PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 4

No.041 - 100号まで、残り59家族、59ヶ月



NO. 041

あまりの1家0家族、わたしたちのよから。

20150811



今号（42家族目）のご家族▶

林 キクエさん・博美さん・健司さん

撮影場所▶はやし農園（青森市小館桜刈）

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶健司さん「仕事で外回りの最中、書店に立ち寄っていました。棚から本が落ちてきて、店内にいた人は店員の声掛けでみんな外に逃げて。車で自宅に帰るとき、信号が消えていることで停電に気付いた。自宅はどうなったかなと心配したけど、食器棚もそのまま、なんともなく

て（笑）。当時高校生の娘2人は怖がってたね。電車が止まって、学校まで迎えに行ったような気がする。

▶キクエさん「健司と2世帯住宅の自宅に1人でいました。主人が2月末に亡くなったばかりで、冬だったのでまだ納骨してなくて。地震で、お骨と遺影が落ちないように祭壇から降ろして、自分は外に逃げたの。」

▶博美さん「私は職場。揺れてすぐ停電になり、非常用電源がついて。職場の分室が弘前と八戸にあるんですが、電話は通じずメールもできず、安否確認ができなくて、多少混乱がありました。実家とは、弟と一度メールのやり取りができて、無事と分かった。自分は飼っている猫が心配で、自宅マンションに帰りましたが、10階なので階段で…。猫もおびえてて、私の顔を見たら安心したみたい。電源がないので暖房をつけられなくて、でも、実家は薪ストーブだから全然苦労がなかったんですよ。実家に行こうかなあと思ったけど、猫のことがあるから我慢して、猫を抱いて寝ました（笑）。」

●次の日はどうでした？

▶博美さん「仕事で、県外からお客さんが来る予定だったんです。一応約束は約束だから職場に行きました。でも電話も通じず、結局誰も来られなかった。」

▶健司さん「次の日は父の法要で、まだ停電していたのに、仕出し屋さんがちゃんと注文していたお膳を持ってきてくれて、感心した記憶がある（笑）。」

▶キクエさん「親戚も地震の被害はあまりなかったので、ちゃんと集まってくれて。」

●震災後、それまでの生活とは変わったことはありましたか？

▶キクエさん「必要なものをまとめて、非常用のリュックをつくりました。水道が止まったりしたらダメだと思って、いまもペットボトルに水を入れてとっておいています。時々入れ替えして。」

▶健司さん「水が古くなったら、畑にまいてね（笑）。家族と何か話したんだろうけど、もう忘れてしまってるね。

▶キクエさん「もし、ああいう地震が来て、津波が来たらどこに逃げようかとは話したよ。」

- ▶健司さん「そうだ。山（農園）に来ようってことになったね（笑）」
- ▶博美さん「その前に渋滞に巻き込まれちゃうよねって（笑）」
- ▶健司さん「山が月見野だったら近かったのにとか（笑）」
- ▶博美さん「結論が出ないまでも、『どこに逃げようか』っていう話はしたね。そのときはやはりショックを受けて、人間なんて、大自然の前では、はかないものだなんて。だから自然に抵抗するのではなくて受け入れて、何があってもいいようなところに身を置くというか、たとえば川のそばに住まないとか（笑）、そういう都市づくりをしていかなければいけないんじゃないのって考えました。自宅は高い階だから大丈夫だろうけど、海の近くで、過去には高潮の被害があったこともあってね。どこも安全ということはないだろうけど。職場があるビルは、年に2回避難訓練をしているので、いざというときはそれが役に立つかも。」
- ▶キクエさん「いつ何があるか分からないということは、いつも頭に入れてる。」
- ▶博美さん「最近では火山の話題などもあるし。地震がくるたびにちょっと思い出して、備えておかなければいけないなと思う。」

●10年後のイメージは？

- ▶キクエさん「私はもう生きてない（笑）。生きていても、ヨボヨボしているかも（笑）」
- ▶博美さん「ヨボヨボしてても山に来て、こうやってるんじゃない？ 母は山に来ると、人一倍歩くの速いし。作業も早くて、だれも追いつけない。」
- ▶健司さん「10年後...さほど変わってないと思うけどね、状況は。（農園で栽培している）カシスで大儲けしてるとか？（全員笑）」
- ▶博美さん「私はたぶんもう職場はリタイヤして、この農園で悠々自適に過ごしていると思います。」
- ▶健司さん「毎日来れるよ（笑）」

【取材後記】青森市の小牧野遺跡近くにある「はやし農園」は、お父様から受け継いだ健司さんが本業を持ちながら管理しています。別に暮らす博美さんも、週末は農園でリフレッシュするのだとか。何かあったときの避難場所に「山」があがるなど、ここは家族を結び、集う場所なのですね。同市特産のカシスを栽培しており、取材にお伺いした日は収穫の最盛期でした。（今号No.041の撮影とインタビュー担当者：前田ふひと）

【寄付総額】2011年6月～2015年6月30日まで「¥3,305,321」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願い致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。